

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博士（学術）	氏名	松本千香
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論文題目			
災害時におけるペットとの避難行動を規定する要因の検討			
論文審査担当者			
主査	教授	坂田	桐子
審査委員	教授	坂田	省吾
審査委員	教授	奥田	敏統（統合生命科学研究科）
審査委員	教授	岡本	哲治（医系科学研究科）
〔論文審査の要旨〕			
<p>東日本大震災では、飼い主がペットと共に避難する同行避難の困難さや、避難所でのペットの取扱いに苦慮する例が多々報告された。環境省は、災害時におけるペットとの同行避難（災害発生時に飼い主が飼育しているペットを同行し、指定避難場所等まで安全に避難すること）を推奨しているが、同行避難の実施率は低く、ペットのための防災対策（以下、ペット対策）の実施率も低いのが現状である。本論文では、(1)ペット飼い主・非飼い主双方についてペットとの避難行動に対する肯定的態度を促進・抑制する要因、及び(2)飼い主によるペットの防災対策を促進・抑制する要因を、探索的に検討することを目的としている。</p> <p>本論文は5章から構成されている。第1章では災害とペットを巡る現状の問題、及び災害とペットに関する先行研究の知見を概観した上で、ペットとの避難行動に関する研究の不足を指摘し、本論文の視点を示した。第2章(研究1)では、ペット飼い主・非飼い主計600名にウェブ調査を行い、同行避難への賛成度及び避難所等での他者のペットとの同居への受容度を促進・抑制する要因を検討した。その結果、ペット飼い主特有の促進要因として環境省による同行避難推奨の知識が、非飼い主特有の抑制要因としてペットが周囲に迷惑をかけるかもしれないという懸念が、また飼い主・非飼い主共通の促進要因として、ペットを人間と対等な存在と見なすペット観（以下、対等な存在）及びペットに不調が起きることへの懸念（ペット懸念）が見出された。第3章(研究2)では、ペット飼い主300名にウェブ調査を行い、飼い主によるペット対策を促進・抑制する要因を検討した。その結果、ペット仲間の多さやソーシャルサポート源の多さ、及びペットとの離れがたさを強く感じることでペット対策を促進することが明らかになった。第4章(研究3)では、ペット飼い主・非飼い主計500名にウェブ調査を行い、特にペット観の観点から、ペットとの避難行動への賛成度・受容度並びにペット対策を促進・抑制する要因を検討した。その結果、研究1で見出された「対等な存在」というペット観の他、ペットの生死を人間が管理するべきではないとする日本的ペット観、及びペットの人間社会への適応を人間が援助すべきとする欧米的ペット観が、いずれも同行避難への賛成度・受容度及びペット対策の促進要因となっていた。その他、ペット対策の促進には、ペット動物の性質に</p>			

関する知識や動物の福祉に関する知識など、飼い主の知識面も重要であることが示された。第5章では第2章から第4章までの結果を総合して考察を行い、本論文の学術的貢献と実践的貢献、及び本研究の課題について述べた。

本論文は、災害時のペットとの同行避難やペットの災害対策の規定因を実証的に明らかにした稀少な研究であり、人とペットの防災・減災に関する先駆的な研究と位置付けられる。ペット観という漠然とした概念の一部を明確に定義し、それがペットの災害対策やペットとの避難行動に大きく影響することを実証した点、飼い主だけでなく非飼い主の観点からも規定因を検討した点で、学術的・実践的に大きな価値をもつと言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。